

The Chronological Table of Literary Report in Hokuriku Mainichi News Showa No. 3

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/349

『北陸毎日新聞』文芸関係記事年表稿 (昭和篇③)

森 英一

- 昭和八年
- 1 1 「めでたい話二題」佐藤春夫 3日完
 「私の宗教」明烏敏
 「初雪のころ」吉田絃二郎
 「或酒場の出来事」岡田三郎
 短歌「朝海」佐々木信綱
 短歌「初日」柳原燐子
 俳句「朝海」白田亞浪
 童話「おりこうになった喜美ちゃん」横山美智子
 「文壇の動向と新人達」新居格
 3 短篇「五万円の万年筆」横溝正史 7日 3回完
 8 詩「今年の初日」長岡正明
 11 「昭和八年の文壇予想」遠山宣次
 「尾崎紅葉」福田清人 25日 3回完
 「郷土史話 仏御前の懺悔話」北野範二
 「支那に伝はる月の神話」林風夫
 15 短篇「皆さんのドラマ 鶏が鳴いた」松田恒道 4・2 11
 22 回完
 「短歌への道」木谷与作 2・19 5回完
 25 短篇「義姉と章吉」植見さゆみ
 短歌「伊勢神宮に詣で」木谷与作
 短歌「近詠十首」井上たかを
 詩「冬」福田雅之助
 「大に林君の提灯を持つ」上野与仁
 千代尼墓碑移転記念俳句大会
 27 「柳樽寺柳談」井上劍花坊 15日 3回完
 21 「北欧の冬」柳沢健 8日完
 「ふゆ断章」山村幸一
 詩「宣言」房山幸夫
 短歌「楽屋から」成沢邦
 短歌「近詠十首」井上たかを
 短篇「鬼あざみ」太田洋子 8日完
 8 詩「少女の像」八田ゆき緒
 詩「微光」山下巢泥
 短歌「近詠十首」井上たかを

- 16 // // 15 12 // // 8 // // // // 3 1 23 // // // 22 // // // // 15 // 12 // //
- 短歌「吾子逝く」神田茂雄
短歌「断崖に立つ」鈴見香芽二
短歌「日本のすがた」和沢静子、他
短歌「お城のあと」新村友治
『今日の文学』を通じて」加宮貴一 22日完
詩「生命」松村ひろ詩
短歌「浅春」八田ゆき緒
短歌「鶴来スキー遭難者を悼む」梅松友一
「雑感」三上於菟吉 3・8 3回完
詩「子を讃える」竹田一郎
詩「信念」東孝朔
短歌「国際連盟賦」神田茂雄
「子供六題」塚原健次郎 3・8完
「愛は輝く」木村荘十 12・21 21回完
記事「来朝の世界的文豪バーナードショオの横顔」
短歌「焦心抄」八田ゆき緒
短歌「近詠十首」井上たかを
短歌「楽屋より」成沢邦
短歌「日常小吟」山瀬とし夫
詩「愛撫」梅松外一
「作者の手帳」細田源吉 15日完
短歌「連盟脱退」山瀬とし夫
詩「旅人」福田自由朗
童謡「露の台」新村友治
「浅春雑草」山村幸一
短歌「身辺雑詠」八田ゆき緒
詩「独居」房山吟夫
「加賀の俳諧」桂井未翁
- 19 // // 16 // // // // // // // // 4 2 31 // // // // 29 // // // // 23 // // //
- 詩「春よこい」小川三枝
詩「春」大谷義雄
詩「迷子の小鳥」山本英詩
「遙かに金沢を見直すの記」新京にて」棚木一良
「短歌の新動向」閑古鳥詩社・上山南洋
「文壇の風景」即羅哲
短歌「近詠七首」井上たかを
詩「心境詩篇」高崎清一
詩「生活風景詩抄」八田ゆき緒
「醉漢氏に答へて」笹非信正
「河豚、故郷」田中貢太郎
詩「足音」今井俊一郎
詩「浅春」山谷善男
詩「薄儀執政に献ずる詩」東孝朔
「道子の日記」及川道子 4・7完
「復活した若人社へ」井家生
「奈良と広津和郎君」保高德蔵
詩「くちづけ」婦久多淳
短篇「母 最後の面影」山村幸一
短歌「歌ごころ」上山南洋
童謡「不思議な杖」柳橋美津枝
「現代芸術を観る」長谷川如是閑 19日完
短歌「新短歌」砂田清哉、他11名
詩「素描」八田ゆき緒
詩「海鳴り—東京へ去る笹井氏に—」山村幸一
「醉漢氏の目は明るい 笹井信正君に尋ねて」三木三郎
童謡「清六の頓智」宮坂大吉郎
詩「十字路」梅松外一

- // 詩「兼六園」西川喜一
 // 短歌「国を売る者」神田茂雄
 // 短歌「閑古鳥歌会詠草」越野黙歩、他
 // 俳句「近詠」安川久流美
 // 「女性」吉行エイスケ
 // 「私生活と作家的精神」豊島与志雄
 // 詩「朝」山村幸一
 // 詩「海」西川喜一
 // 詩「児は病んでゐる」房山幸夫
 // 短歌「春」里沢利子、他
 // 短歌「海」和沢静子、山本妙子
 // 「機関車の脇で」龍膽寺雄
 // 短歌「新短歌」宮本知一
 // 詩「街景」西川喜一
 // 詩「岩」八田ゆき緒
 // 詩「生きて行く」大垣駿
 // 詩「夕暮れの道」山田彌三平
 // 「文芸時評」新居格
 // 「若き女性の苦悩」神近市子
 // 短歌「黒壁山讃首」藤本博史
 // 短歌「新短歌」福田義正、他
 // 詩「五月の空」西川喜一
 // 「彼女の場合」戸川貞雄 11・11 181回完
 // 短歌「さつき晴れ」入口英次、他
 // 俳句「春」中浜なつゑ、他
 // 「意志の文学」荒木精之
 // 短歌「苦悩、辛夷小吟」八田ゆき緒
 // 詩「ムーランドギャレ」ボナールの書をみて」西川喜一
- // 詩「夢の中から」日女之丞
 // 「日東氏の句」安川久流美
 // 「山草展から」清水秀雄
 // 短歌「農耕旦暮」神田茂雄
 // 詩「蒙古風熱河省平泉にて」深見軍医
 // 短歌「父の墓を建つ」出口春葩
 // 詩「東洋精神」東光朔
 // 詩「海」西川喜一
 // 「こども『本の祭』の詞」毎日周治郎
 // 「短歌作品集」辻長司、他
 // 「若い作家の方向」阪本越郎 9日完
 // 「啄木の再認識」石川正雄 16日 3回完
 // 「筏井竹の門氏と作句の川柳味」安川久流美
 // 詩「没落の日に」山田彌三平
 // 短歌「皐月抄」宮本知一
 // 短歌「生活余録」八田ゆき緒
 // 短歌「或る歌人の死(松本貞村氏逝去)」武田紫水
 // 詩「自由詩」坂本文子、脇本ヤヨエ、茶谷信子、角三みさを
- // 7 「川柳味談議―六月の日記より―」安川久流美
 // 短歌「新短歌」宇ノ氣百雄、他
 // 俳句「少女俳句」古屋ひさ子、他
 // 「片手剣法」平山蘆江 9・6・19・303回完
 // エッセイ「自殺」高橋進吉
 // 「老木の霊」安川久流美
 // 短歌「不幸続の家庭」神田茂雄
 // 短歌「春の雨」中谷武夫
 // 短歌「閑古鳥歌会詠草」諸家

- 23 「ナチスへの抗議運動と新反動主義」新居格 7・7 3
- 回完
- 「近事随想」木戸逸朗
- 俳句「近詠」安川久流美
- 「短歌」谷峠登攀「島村喜代夫
- 詩「緑の風景」松村浩二
- 俳句「夏六句」加藤曉夫
- 25 「文壇噂話」10・20 13回完
- 30 「随筆 たび日記抄」安川久流美
- 「短歌」五月抄」淡初朝
- 「短歌」直江津まで」山本五月
- 「短歌」旅の六月」中谷武雄
- 「閑古鳥歌会詠草」諸家
- 7 「短歌」野菜売の歌」神田茂雄
- 7 「詩」炎天詩篇」高崎清一
- 「随筆」牡丹々々」水野長零
- 「北陸歌誌展」六歌仙人 14日完
- 14 「反動時代の文学その他」生方敏郎 21日完
- 「漫筆 牡丹餅落ちず」水野長零
- 「民謡」母子草」松本あき正
- 「短歌」新短歌」鴨尾利吉、他
- 16 童話「蜂小僧」花巻三郎 23日完
- 「短歌」夏雑詠」宇ノ気百雄
- 21 「短歌」ひる顔の花」神田茂雄
- 俳句「近詠」久流美
- 俳句「断、怨、交流」梅松三十四
- エッセイ「髭涼し」安川久流美
- 28 「純文学について」長崎謙二郎
- 「民謡と童謡と小曲」松本あき正
- 「短歌」近詠十首選」神徳凱一
- 「短歌」夏」秋山タツエ
- 「短歌」海」山本五月
- 「短歌」辻の事件」安川久流美
- 「文芸の社会性と個人性」徳田秋声 11日完
- 「蓮の名前か」水野長零
- 11 「近詠」久流美
- 「子は欲し欲しくなし」安川久流美
- 「文芸時評」新居格 25日 3回完
- 13 詩「和倉にて」和田美佐穂
- 18 「短歌」子らのために」神徳凱一
- 「短歌」近詠十首」神徳凱一
- 「短歌」宇奈月の春」宮本和一
- 「短歌」黄涙余録」鈴見香芽二
- 「エッセイ」石か金か銅か」安川久流美
- 20 「短歌」星の光」神徳凱一
- 25 「味覚夜話」木下謙次郎
- 「柳海」無茶帆
- 27 詩「馬子と馬」小沢雄三郎
- 詩「心の花」神徳凱一
- 9 「類似小唄の比較」松本あき正
- 1 「民謡」盆踊り」太田準
- 「日本語に困る」安川久流美
- 「エスペラント漫談」清水順吉
- 「短歌」百姓賦」神田茂雄
- 「短歌」近詠十首」神徳凱一
- 3 「短歌」そら色の花」神徳凱一

- 8 「歌人素質論」 鈴見香芽二
 短歌「夏の歌」 秋山タツエ
 短歌「能登の旅」 山瀬とし夫
 短篇「若い女の死」 宮本知一
 短歌「星と花」 神徳凱一
 「コント 第一の失恋」 城夏子
 「随筆 本来自性は清浄」 安川久流美
 短歌「近詠十首」 神徳凱一
 短歌「身辺拾遺」 八田捷郎
 「挿絵画家評判記」 木戸左右太 10・27 7回完
 短歌「切籠祭り」 神徳凱一
 「社会反映の文学」 細田源吉 29日完
 短歌「能登の旅」 山瀬とし夫
 短歌「初秋抄」 八田捷郎
 「随筆 屋根さん」 安川久流美
 「文芸時評 左翼作者の没落」 生方敏郎
 短歌「秋雑詠」 郷美
 詩「秋の夕ぐれ」 ぬか千夜
 短歌「つゆくさの花」 神徳凱一
 「作歌の心理」 鈴見香芽二
 「小泉八雲ゆきて三十年」 原勇六 20日 3回完
 短歌「秋・夕」 森下敏夫、出口三郎、山村竹松
 「街と散歩」 川端康成 20日完
 童謡「ねむの花」 桐葉信三郎「きのこの国」 山本英詩
 童謡「画のお月さん」 和布浦義郎
 短歌「うた、秋のくれ」 桐葉信三郎
 短歌「うた、雨だれ」 和田義佐穂
 詩「小使のお婆あさん」 高崎清一
- 11 詩「笹舟小舟」 桐葉信三郎
 短歌「このごろ」 出口三郎
 「女流批判」 新居格 10日完
 「女流作家評判記」 12・15 6回完
 「科学と哲学」 安川久流美
 短歌「秋日寂篇」 関口勝三
 「第二回歌人歌話会詠草」 中谷武雄、他
 「随筆 死刑の夢」 安川久流美
 「秋夜三盃―近事日記抄」 瀬川与志 12・1 3回完
 短歌「友みたり」 和沢静子
 「麗怨」 福田正夫 9・4・5 133回完
 「再び歌の素質に就て」 鈴見香芽二
 「大衆文学と純文学」 武者小路実篤 12・1完
 詩「秋の暮」 鈴木千賀夫
 短歌「悲しみ」 神田茂雄
 俳句「師走」 久流美
 「俳聖の跡を訪ねて」 橘志頭雄 12・8完
 俳句「冬」 鈴木千賀夫、和田実
 「満十五年を迎へたわが新しき村！」 武者小路実篤
 「昭和の文芸復興」 十菱愛彦
 短篇「雨と愛情」 城夏子
 短歌「年の暮」 三ツ井みゆき、浜塚君子、亀田美哉子
 「探偵小説 犯罪王」 浜尾四郎 9・10・12 199回完
 「実話文学について」 小林武七
 「歌壇の動き」 上山南洋
 「漫筆 街のパチンコ」 川端柳之助

昭和九年

- 1 1 短歌（佐々木信綱、与謝野晶子、杉浦翠子、金子薫園）
 俳句（伊藤松与、青木月斗、萩原井泉井）
- 「新年をめぐる幻想」新居格
- 「初春」丸木砂土
- 「年頭漫筆」徳川夢声
- 「短篇」硝子箱 吉田絃二郎 1・3完
- 「詩」元旦の暁 八尾孝八
- 「童話」犬のお爺さん 前田兆
- 「佛像愛玩の流行」井伏鱒二
- 「新進作家エンマ帖」木戸左右太 2・21 6回完
- 「閑古鳥」新年歌会詠草 青山兵吉、他
- 「むぐら初句会」桃源、他
- 「童謡」お家の猫 高島政雄
- 「文学ABC 法則、形式を破れ」中岡宏夫
- 「短篇」情話新宿ア・ラ・モード 加能慶四郎
- 「短篇」コント怪我 立野信之
- 「不愉快な事」光洋生
- 「寒中独話」石田三造
- 「短歌」喪にこもる新年の歌 神田茂雄
- 「短歌」河童の悪戯 馬場孤蝶
- 「短篇」犯人の判らぬ殺人事件 森下雨村
- 「悪気を払ふ青陽を迎ふる節分」松尾直明
- 「童話」古狸と白雲さん 浜田勝次郎
- 「俳句の復興吾等は寄らう花鳥諷詠詩に」中西舗土
- 「短歌（城山春葉子、西出茶嶋）」
- 20 「俳句・モダン・リズムに合致する薫風」橘志頭雄
- 「短篇」エロ・陽性怪談、彼女達は遂に受胎」広播
- 14 「梅の花考」松尾轟明 21日完
- 「佐々木氏の追憶」篠原文雄
- 「短歌」第一高女歌会十人集 佐藤玉栄、他
- 「短篇」爐辺夜話 暮奇談 浜本浩
- 「童話」象の鼻 阿緒木浄 25日完
- 「スキー夜話」XY生
- 「むぐら句会」前田普羅、他
- 「俳句」残雪 沢井一雄（岩根町文芸会）他
- 「死んだ詩人横瀬夜雨の事共」龍騰寺雄
- 「金沢の歌人」松園逸人 3・14 3回完
- 「短篇」鎌倉の慧春尼 榎本弥助
- 「俳句」こぼれ茶 北村石洲
- 「生れた句塊」
- 「俳句」卒業 里沢利子、他
- 「詩」冬の登校 村田修
- 「短歌」妹病む 屋よしひろ、他
- 「評論」無常輪廻 二作家の死 田中貢太郎
- 「俳人慢言」黒田桜の園
- 「短歌」金沢アラギ素描 越田徳治、他
- 「詩」春日和 河原一夫
- 「俳句」ホクマイ句会抄 平石吾生、他
- 「発狂した辻潤」高橋新吉
- 「詩」紅椿 城山春葉子
- 「むぐら句会抜抄」杏水、他
- 「童話」お月様と狐の子 嶺利一
- 「短歌」犬 越浦梅子、他

- 25 詩「弟と風」 入口英次
- 27 「仏教と恋愛」 清水順吉
- 29 「鹿島光明吟社同人廿七人集」 29日完
- 「俳論 梅と鶯」 淡初朝
- 「肉食今昔考」 阿羅波
- 「田園生活譜」 苦勞田耕人
- 「文士と麻雀」 狩野竹生
- 4 1 短歌「歌集」 村田俊子、他
- 俳句「入学」 越浦梅子、他
- 5 「春のつれづれ」 馬場孤蝶
- 「旅する魚」 日高基裕
- 詩「青い緞子」 本山正春
- 短歌「わびし春」 田村文子
- 6 「曙の唄」 中井泰孝 9・5 146回完
- 7 「刑務所の秘密」 森下雨村
- 8 「或銀行員と妻君」 酒井真人
- 童話「船頭と花見」 みね・利一
- 俳句「落椿」 久田実、他
- 11 詩(山崎喜一)
- 15 童話「肖像と耳」 みね・利一
- 18 詩「かたくな、心」 桜井よし子
- 俳句「むぐら例会抄」 月尚、他
- 「故郷の友に送る(満州から)」 棚木一良
- 20 「春宵雑記」 山岡一己
- 「江能短歌大会」 木谷豊子、他
- 短篇「五分間恋愛」 徳山鉄彦
- 短歌「雑詠」 南部吉雄、他
- 22 日曜附録「布袋の市兵衛」 一龍齋貞高 9・2 20回完
- 25 「童話「古新聞」」 みね・利一
- 短歌「午餉の刻」 寿々通支
- 「金沢マララギ抄」 岩木五助、他
- 27 短篇「或色男と芸妓」 久永純一郎
- 詩「或る刻」 寿々通支
- 「痴人の告白」 読後感」 中間健 5・2完
- 29 童話「お爺さんと狐」 みね・利一
- 5 4 短篇「鍵穴と接吻」 伊丹三郎
- 詩「詩」 ハマノ・孤角
- 随筆「一抹の嬉しさ」 諸岡清水
- 「永光寺観桜句会抄」 永井物外、他
- 6 童話「鯉のぼり」 みね・利一
- 9 民謡「想へば悲し」 西村勇信
- 短篇「ヴァイオリン春夏秋冬」 浜野昌介
- 短篇「?の翌日」 井上立工
- 詩「小曲よこがほ」 八田茂路
- 11 「文学論壇 作家と表現」 神保光太郎 5・16完
- 民謡「四季の片町情緒」 杉野美絵
- 童話「木馬の夢」 みね・利一
- 13 童話「苗代」 山本えいし
- 16 民謡「噂さ」 入口龍彦
- 「改造社の『虚子会集』を読む」 野村泊月
- 18 短篇「マダム横顔」 野口謡二郎
- 「むぐら句会抄」 月尚、他
- 「アラ、ギ歌会」 越田徳次、他
- 「狂人と私」 八田捷郎
- 20 童話「潟山津・大助の話」 みね・利一
- 23 「奇妙な仇討」 津賀不二夫

- 20 // // // 15 // // // // 13 10 // // // 8 // // 6 3 // 6 1 // 30 27 // // 25 // // // // // 22
- 「風雲双龍絵巻」下村悦夫 10・2・23 205回完
- 詩「木蔭に憩ひて」向楠山
- 「むぐら句会抄」月尚、他
- 短歌「魚市場」森梅之助
- 隨筆「変った煙草」馬場狐蝶
- 隨筆「鹿島郡交驪俳句大会句会抄」諸家
- 「鹿島郡交驪俳句大会句会抄」諸家
- 短歌「柳翁舍偶会」大森横翠
- 「初夏随想」森下雨村
- 「初夏随想」森下雨村
- 童話「ほたる」みね・利一
- 「生活を高め、清める」与謝野晶子
- 「蟻塔鹿西支部句会抄」北野鹿秋、他
- 短話「ほたる」みね・利一
- 短篇「曲芸園で」高山燦一
- 「愉快な初夏の服装」新居格
- 短篇「蛇捕り老人の話」篠原文雄
- 「竹田喜一郎論」片山新 6・8完
- 「葦附石川支社創立歌会詠草」藻谷六郎、他
- 童話「白蛇」みね・利一
- 隨筆「猫の皮・犬の皮」甲斐史郎
- 「文学者と使命」十菱愛彦
- 「鰻と文士」三田村鳶魚
- 「マロニエの巴里」武林無想庵 6・1完
- 「小説の評価基準」龍膽寺雄
- 「第四回金石短歌会詠草」櫻葉恭太郎、他
- 短篇「結婚指輪」砂間・アラハ
- 童話「蛙」みね・利一
- 隨筆「質草」佐月香史
- 詩「友を思ひて」松川実作
- 短歌「あらうみの集ひ」苔生居
- 「文壇近事」木戸左右太
- 隨筆「燕雜誌」榎本彌助
- 隨筆「崩れ行くもの」詩島敏 29日完
- 「葦附社六月短歌会」木戸一雄、他
- 「月尚氏詩思会句抄」むぐら同人（月尚、他）
- 「素人園芸の妙味」森下雨村
- 「蟻塔会鹿西句会抄」北野鹿秋、他
- 短歌「歌と人と論社歌会」梅松三十四、他
- 詩「なぎさに立てば」浜野昌介
- 詩「歌」安川郷子
- 「あらうみ句会抄」月尚、他
- 「緑蔭漫談」畑耕一
- 「知性と女流作家」森三千代 11日完
- 「大衆文芸の近頃の事」木戸左右太
- 詩「恋の和倉」浜野昌介
- 童話「蛙と田鼠」みね輝夫
- 「朝顔のいろいろ」頼慶亀
- 隨筆「野武士と山人」榎本弥助
- 「夏閑題」大木秋子
- 「南支の旅」新居格 16日 3回完
- 童謡「流れ星」山本えいし
- 「青春恋愛風景」青木柳二
- 短篇「あをぞら」浜野昌介
- 「第五回金石短歌会詠草」牛丸よしひと、他

- 民謡「想ひ出」西村勇信
 20 「甲祭庵新居句会」甲祭、他
 短歌「能登島遊草」早川浩二郎
 「純文学の魅力」杉浦伊作
 25 詩「まづしきもの」記代
 詩「夏の朝」西村勇信
 「金沢アラ、ギ会詠草」横川遠、他
 「民謡二題」入口龍彦
 27 「新支那の農民文学」新居格
 「歌と人と論社短歌会」鈴木保正、他
 29 童謡「雨蛙とあんず」みね・すけよし
 詩「梅雨の雨」松原鉄次
 8 1 「書物談議」飯島正
 「組上脱刀うみ三氏の句評」安川久流美
 短篇「片恋」南田草香
 3 「思ひ出より」子野十二
 「自殺談議」広千香
 5 短歌「蚊帳」松原鉄次
 7 広告「頭脳の摂政を文芸家に聞く」吉川英治、子母沢寛、
 尾崎士郎、野村胡堂、国枝史郎、畑耕一、浜木浩
 8 「露台通信」瓢逸山人
 「紗羊氏歓迎あらうみ小集句会」諸家
 10 短篇「ミヨと由松」松本流水生
 12 詩「小曲あしおと」八田茂路
 「蟻塔鹿西支部八月例会句抄」北野鹿秋、他
 17 「島藪氏を悼む」山村孝一
 詩「新らしき生命」白山星花
 短歌「恁んな家庭」木村喜一
 詩「別れ」西村勇信
 短篇「秋風の処女」丘一樹
 19 童謡「蛙の墓」おか・みさを
 「其水氏歓迎蟻塔鹿西支部句抄」坂本其水、他
 22 「揺らぐ霊柩車」島藪君の面影」平石義親
 24 「山の温泉宿の想出」毛藤松声居
 「氏に贈る笑顔」石田三造
 「十年前の島藪君」村井武生
 短歌「立秋 島藪秀雄君の霊へ捧ぐ」西川喜一
 記事「島藪君のデスマスクに就て」
 「金沢はいい」松本生子
 28 「亡き島藪のために新芸術社へ一言」三重元
 29 詩「目なし鳥」八田茂路
 詩「無題」寿々通友
 隨筆「能登島行」みね・利一 9・12 5回完
 9 「新芸術の批判者へ」新芸術同人・室野春芳
 5 詩「若き騎手」中沢縁生
 6 「蝕める王冠」竹田敏彦 10・7・6 113回完
 7 「打てば響く」新芸術社へ」羽田健
 9 詩「野菊」春木盛正
 日曜付録「享保大陰謀 龍頭組」西尾鱗慶(述) 落合康志
 (記) 12・23 17席完
 12 「文壇噂話」狩野竹生 14日完
 詩「花占ひ」八田茂路
 民謡「三題」北野範一
 「あらうみ句会」梶菜里
 14 「葦附石川支社歌会」藻谷六郎、他
 「金石第六回短歌会」櫻葉恭太郎、他

- 19 「秋夜雜詠」燈下人情ばなし」平山芦江 21日完
 詩「水禍村の秋」片山翠圃
 短篇「因果」多賀松
- 21 「荒なみ越へて」浜野昌介
 「井上剣花坊の追憶」狩野竹生
 「子規卅三回忌句会」江尻梅圃
- 22 「英傑・久田船長」中山楠雄 23日完
 「あちこちの秋」古木鉄太郎
 短篇「名鳥物語 鶉の話」榎本弥助
 短文「秋夜」松原鉄次
 詩「秋はしつとり」茂路
- 28 「私の文壇過去帖」水守亀之助
 「所謂文芸復興の苦杯」神戸雄一
 「あらうみ句会抄」月尚、他
- 10 「不思議な話など」長谷川伸 5日完
 「歌壇の女流作家評」鈴見香芽二
 記事「わが金沢を訪れる文壇論壇の三巨頭」
 詩「秋の投身」嵯峨茂路
- 10 「秋風に歌か」西出茶鳩
 「仕事に関して」川端康成 12日完
 「文壇野次時代」中野晴介
- 12 短文「近詠」林春光
 「北毎柳壇小集」妙子、他
 「夏日哀憶」橘真澄
- 13 「女人明暗」亀屋原徳 10・7・7 175回完
 童話「鞍ヶ獄の池」みね・利一
 童謡「くり」山本雪子
- 14 詩「おち葉」山本照夫
- 11 俳句「むくげ三人集」芝田貞子、四柳よし、松原喜久治
 「少年少女文芸を読んで」北あらだ
 「文芸時評」新居格 24日 3回完
 「北陸雜記帳より」栗田紗非 24日 3回完
 短文「孔雀の伝来」榎本弥助
 短文「故郷を歌ふ」林春光
 「葦附石川支社歌会」山瀬とし夫、他
 「つきみ短歌会」園部三郎、他
 詩「助骨の岩角（島藪秀雄を偲びて）」西川喜一
 詩「或る恋歌」嵯峨茂路
 詩「朝市出」浦瀬白雨
 童話「人形の首」みね・暉夫
- 21 「北陸アラ、ギ歌会詠草」土屋文明、他
 「北毎川柳会集」權兵衛、他
 評論「大衆文学雜誌」水上信一郎
 詩「小曲・秋の噴水」嵯峨茂路
 短文「秘日閑影」安田秋夫
 「閑古鳥歌会抄」坂本其水、他
 童話「桑の実」みね・暉夫
 童謡「夕やけ」山本雪子
- 31 「文芸時評」浅見淵 11・2完
 「『あらうみ』は育つ 創刊号選刊の弁に兼ねて」石洲生
 「かがひ」誕生の弁 柏野葉路
 隨筆「兄の清算」町虚夫
 「金石短歌会詠草」米沢政雄、他
 「蟻塔支部句会抄」北野鹿秋、他
 「好きな作中人物」土師清一
 「近頃べら棒談議」木戸左右太

- 短歌「朝の槻の木」安田秋夫
 短歌「未亡人のうた」武村とし子
 「蟻の塔句会抄」紅果、他
 「如何が精神を作興せん」高島米峰
 短歌「秋晴村行吟」田金夷生
 「北毎柳壇小集句抄」柳之助、他
 詩「夜の追憶」高木寂
 短篇「夫婦」宵島一雄
 随筆「をさなきものへ」中本義雄 12・16 5回完
 詩「お月さん」山本えいし
 童話「海鳴とこほろぎ」みね・すけよし
 「金石短歌会詠草」杉本吉郎、他
 短歌「冬来抄」ちるちる
 「秋びより漫談」村上浪六
 随筆「歌人万華鏡」鈴見香芽二
 「あらうみ(創刊号)を見る」小松砂丘
 「批判家はゐらないか?郷土文壇の現状」室野春芳
 童話「夜」みね・利一
 「文壇噂話」狩野竹生
 詩「瞳」道子
 俳句「風交会小集」熊峰、他
 「『閑古鳥』歌会詠草」越野黙歩、他
 「蟻塔句会抄」白川兵思、他
- 随筆「帰郷」高山燦一
 童話「父」みね・暉夫
 「爐辺怪談」白瀬生
 「蟻塔鹿西支部十一月句会抄」北野鹿秋、他
 「社会主義レアリズム小論・本保氏に進言す」室野春芳
 「吟行かすみ網」あらうみ社同人
 「文芸時評」浅見淵 12・12 5回完
 詩「晚秋」松村浩夫
 短篇「格子戸」浜野昌介
 詩「たそがれ」はまの・まさすけ
 「夢香氏歓迎句会」
 詩「帰らうよ」山村幸一
 俳句「近什」久流美
 「あらうみ忘年句会」月尚、他
 評論「新しき表現を」今村秋峰
 「詩に於ける内容形式と態度」室野春芳
 「牡蠣・恋・秋」直方敏
 詩「秋の告白」嵯峨茂路
 詩「秋陽抄」室野春芳
 随筆「秋」宮本知一
 短篇「女犯」丘一樹
 「塊は躍る」山崎花の家
 「冬至プロローグ」洋太ロー